令和５年度富山県美術館運営員会　議事抄録

日時：令和５年 11 月６日（月）14:00～15:30
場所：富山県美術館３階ホール

１　開　　会
２　あいさつ
３　議　　題
　(1) 報告事項
　　①展覧会事業について
　　②TAD ギャラリーについて
　　③教育・普及活動について
　　④広報等について
　(2) 意見交換
　　今後の富山県美術館の運営について（意見交換）
４　閉会

主な意見要旨

【生活環境文化部長】
・県では、現在、富山に住む人も訪れる人も幸せが実感できることを目指し、「幸せ人口 1000 万～ウェルビーイング先進地域、富山～」の実現に向けて取り組んでいる。人口が減少する中でも、交流人口・関係人口を幸せ人口と呼び、交流を活発にして地域の活性化につなげたいと考えている。
・こうした中、富山県美術館も、アート、ソフトの面で施策の一翼を担う位置づけにある。来るべき開館 10 年目に向けてどう取り組むか、運営の在り方も考えていく必要がある。委員の皆様にはぜひ忌憚のないご意見を頂きたい。

【Ａ委員】
・海外の美術館に行くと、子どもたちが美術作品の前に座り美術館スタッフがファシリテーターとなって対話型鑑賞を行うのを目にするが、富山県美術館でも行われており大変うれしい。こうした活動を今後も続け、この美術館が子どもたちにとってアートを楽しむ空間となってほしい。
・本当に今、アートの視点は大事である。学校の授業でも答えがないことを求めているような教科になってきており、アートの視点が重要になってきている。これからの学校教育でもアートがポイントになるだろうが、学校の先生方以外の力も必要である。
様々なフォローを美術館には期待したい。

・親子連れが多く、小さな子供たちが楽しんでいる展覧会では、作品やキャプションの位置が低い等いろいろな工夫がある。美術館は楽しんで見られるとよいので、導線や休憩ポイント、水分補給場所なども考えていただければありがたい。

【Ｂ委員】

・コレクション展も非常に魅力的に感じている。本当に素晴らしい作品が所蔵されている。どうしても企画展に目が行きがちだが、ぜひともコレクション展を大事にしていただきたい。企画展を訪れた方をコレクション展に誘導する形を工夫して作ってほしい。
・子供たちが床に座って作品について言い合う姿は目指すべき姿の一つ。まだまだ至っていないところもあると思うので、学校との連携や、来てみてなじみやすい雰囲気づくりに取り組んでほしい。
・訪日外国人が増加している。SNS に簡単な文章だけでもよいので外国語表記をすると、足を運ばれる方が非常に便利ではないかと思う。

【Ｃ委員】

・企画展は、近代美術、現代美術、写真、デザインと、非常にバランスの取れた構成がされている。特に棟方志功展は、地元ゆかりであり、盛況で意義ある展覧会であった。
・コレクション展が大学生以下無料であること、QR コードで作品解説が入手できること、ホームページに学校団体向けのマナーや美術館概要を紹介する動画を掲載していることなどは、他館も参考にしたい事例である。

【Ｄ委員】

・学生を対象とした教育普及活動は非常によい。これからの若者をどう引き付けていくかは必要な課題であり、既に積極的にやっているが、ぜひもっと幅を広げてもらいたい。期待をしている。
・棟方志功展について、自分の師が棟方と交友があったなど棟方は身近な存在であり、展覧会で取りあげられて、非常にありがたかった。

【Ｅ委員】

・「オープンラボ」はコロナが明けてから、子どもたちが、家族連れでも学校団体でも、たくさん来るようになった。無料で充実した内容であることが大変喜ばれている。今後も「オープンラボ」の活動を続けてほしい。

【Ｆ委員】

・他県からも人を動員するような話題になる企画が多くあり素晴らしい。例えば「大竹伸朗展」は東京でも開催されたが、自分の周囲にはわざわざ富山に見に行く人もいた。富山に行きたい気持ちがあった人が、展覧会をきっかけに「今行こう」となる。アート・ツーリズムは、アートの、時代の流れの一つの大きなポイントであり、今後も、このような企画展を続けるとよい。
・デザインの現在の視点として、一つの物事を多面的に捉えること、体験させること、結果として新しいつながりができることがあり、グッドデザイン賞の審査でも重視される。美術館の現在の取組みでも巧みにちりばめられているが、発展形として、学生や子供の関心を高める観点からも、例えば、大学生と子供が接する企画など新しいつながりを作ってあげるような企画も面白いのでは。子供が「将来こんなお兄さんお姉さんになりたい」「地元の大学に行きたい」と思うかもしれない。

【Ｇ委員】
・富山に行こうという人にとって、富山県美術館を訪れるのは楽しい経験になるだろう。説明（の多言語化）だけでなく、ガイドブックやホームページなど、旅行者がアクセスするメディアに美術館の情報を出す仕掛けがあれば、国内外からより多くの旅行客が美術館を訪れるのではないか。
・オーバード・ホールに中ホールができたので、アートとパフォーマンスのコラボレーションのような、お互いに相乗効果を出せるイベント等があると楽しい。

【Ｈ委員】
・美術館で、無料で体験できることがたくさんあることに気づかせてもらった。例えば南砺市の住民は富山に行くことはまれで、保護者は土日も忙しく、美術館での過ごし方もただ絵を見て回るイメージであり、子どもを連れて富山の美術館に行こうという発想がない。美術館でできることがＰＲされれば、「ショッピングセンターに行くくらいなら、ちょっと美術館に行って楽しいことを体験しよう」と誘える。
・「Find TAD！」の来館した学校一覧表を見ると、富山県内の学校からもまだまだ集客可能ではないかと思う。県内の小中学校にも、多様なイベントやワークショップがあることをＰＲするとよい。

【Ｉ委員】
・大竹伸朗展は会期が短い中でもイベントがすごくたくさんあり、密度が高いと思った。トークイベント当日にいけなかったので YouTube のアーカイブを拝見したが、作品への理解度が深まった。今後のトークイベントもアーカイブしてもらいたい。TAD ヴァーチャル 3D ミュージアムもＰＲすればもっと閲覧者数が増えると思う。
・来年度の企画展の IPT が 14 回目になるが、鑑賞するだけでなく、審査員のような気持ちになれるイベントなど、距離感が近づく工夫があるとよい。

【Ｊ委員】
・棟方志功展は、福光にも大勢の人が集まり、美術館に若者や子供が行くきっかけになったと思う。
・所属団体の調査では、富山県民はインスタグラムを全国で一番使っているという調査結果がある。若者に周知するにはインスタグラムが一番有効ではないか。
・海外視察時に観光するときは、その土地の尖ったもの、名物を見に行く。富山県美術館はここが有名だと尖らせることができれば、もっと集客できるのではないかと思う。

【Ｋ専門員】
・大竹展を見に行った生徒が多く、「ちょっとよく分からなかったけれど何か考えさせられる」展覧会だったようだ。大竹展やミロ展など、子供たちが見ても十分に感じられるような目玉企画があり、感謝している。
・普及活動は、子供たちが大人になった時に美術館を訪れ、またその次の世代の子どもたちに、感性や豊かなものを語り継ぐようなサイクルになるとよい。

【Ｌ専門員】
・子供たちが、小学校、中学校、高校、大学の各段階で、美術館でアートに触れ、実物を見て感じることは大切。他教科と美術の一番の違いは「答えがない」ことで、自分自身が感じたまま表現でき、面白い。
・子供たちの作品を展示する展覧会にも参加したが、自分の作ったものが美術館に飾ってあることは、足を運ぶきっかけになる。働き方改革の観点もあり、複数の学校で展示を行うなど、学校と美術館がうまくつなげていけるとよい。

【館長】
・大所高所から幅広い観点で貴重なご意見を頂いた。
・当館の展覧会の大きな骨組みは、20 世紀以降の美術を、世界、日本、そして富山の視点から展望することで、基本計画にもうたわれている。それを大事にしながら、子どもから大人まで幅広い世代の方に来ていただけるような企画ができるよう、これからも努めていきたい。